

2019年5月26日(日)朝10:10～
5月第4共同主日礼拝式説教

主の復活節第6、役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**狭い門と細い道**(13～14節)

聖書：マタイ 7章13～14節

＜口語訳＞

新約聖書10～ 頁

マタイ 7章13～14節

＜新共同訳＞

新約聖書12～ 頁

マタイ 7章13～14節

＜新改訳第3版＞

新約聖書12～ 頁

マタイ 7章13～14節＜塚本訳＞

新約聖書84～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓あるいは説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ7章13～14節**も、**マタイ5章**の続きで、**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、先週の「**求めよ、さがせ、戸を叩け**」(7)で、「**御子イエス・キリスト様**」が私たちに前向きに生きることを求められ、「**黄金律**」とも呼ばれる「12 **だから、何事によらず自分にしてもらいたいと思うことを、あなた達もそのように人にしなさい。これが律法と預言書(と[聖書]の精神)である**」に集約されましたが、「**狭い門**」(13)、「**細い道**」(13)を進み、「**神のいのち**」に与ることを望んでおられます。
- ◇**マタイ7章13～14節**では、「**滅びに至る広い門と広い道**」も語られ、「**警告**」しておられます(14)。

本論；

◇本日、**マタイ書7章13～14節**から主の**使信**に **思い・心**をとめます。

◆**マタイ7章13～14節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が「**神のいのち**」に導かれるため、「**どの門、どの道**」を**進むか**を問うておられます。

◇**13～14節**；塚本訳◆**狭い門**<13～14>

「13 狭い門から入りなさい。滅びに至る道は大きく、かつ広く、ここから入る者が多いのだから。

14 命にいたる門はなんと狭く、道は細く、それを見つける者の少ないことであろう！」と、**使徒マタイ**は語っています。

◇**13～14節**；「**狭い門**から入りなさい」、「命にいたる門はなんと狭く、道は細く、それを見つける者の少ないこと」を示し、同時に、「滅びに至る道は大きく、かつ広く、ここから入る者が多い」と、「警告」もしておられます。

⇒「**狭い門**」は示され、「**滅びに至る門**」、「**広い道**」が、対照的に語られています。

⇒単純ですが、選択は1つなのです。

◆「**狭い門**」を入れることは、「**命に至る門**」であり、「**御子イエス・キリスト様**」の命令であることです。

⇒「**狭い門**」は、「狭い」ことが、「見つける者が少ない」に通じています。

⇒これと連動して、その(門への)道も、「細い」のです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、なぜ「門は狭く、門への道は細いのか」、その理由は語られていません。「聴く」私たちの聴き方に委ねておられます。**SY師**は、牧師の説教に言及し、牧師は、適用を会衆に委ねているので、「**狭い門・命に至る門、門に至る細い道**」が具体的な生活の何かを語らない、と仰せです。

◆「**狭い門**」から教会に入るには、社会的慣習や社会生活そのものが、教会のあゆみの外にあり、教会の礼拝を想定していないので、「**広い門・広い道**」を選択する慣習・雰囲気を取り囲まれ、「入る」こと自体に関心がなくなっているのが、現実です。キリスト者も、あらゆる点での礼拝優先を選択しにくいことです。

⇒さらに道は、細いまま続くのです。

◆「**狭い門・門に至る細い道**」は、この世の生活の「別の門・道」ですから、広い門・広い道を何の不自由もなく生きているとなぜ「**狭い門・門に至る細い道**」を選択しなくてはいけないのかと、自問することは多いのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」が、「**狭い門から努力いってでも入れ**」(ルカ13:24)と言われたのは、「**命に至る門**」は認めるか、認めないか、見つけるか、見つけないかにかかわらず、現実には2つに1つしかないからです。

⇒「**御子イエス・キリスト様のみことば**」に聴くことの重要さがあり、日本人特有の万事中道を行くことは、主の前ではありません。

◆「**狭い門・命に至る門・門に至る細い道**」をあゆむため、聴くべきことばは既に投げかけられています。

⇒**OA師**によると、「**マタイ6:33**;何よりも、御国と、神に義とされることとを求めよ」は、**マタイ7:14**、「**命にいたる門はなんと狭く、道は細く、それを見つかる者の少ない**」を反映している主のみことばであると、仰せです。私には罪があるだけで、義はありませんのみ！

⇒アンドレジットの小説『狭き門』では、2人の姉妹がひとりの男性を愛しますが、先ず妹が姉のことを思い、身を引き、他の男性と結婚します、ところが妹の思いを知った姉も悩み、当時の天国への『狭き門』といわれた修道院に入り、そこで姉は死んでしまうと、**SY師**は紹介しておられます。

⇒その修道院で、悪魔の力を感じたマルチン・ルッターは、当時のローマ教会から破門され、宗教改革へと進みました、それは、絶えず、いのちの危険が伴う「**狭い門・命に至る門・門に至る細い道**」でした。

⇒時代の流れの中で、**神信仰**ゆえ、先達たちがそれぞれの「**狭い門・命に至る門・門に至る細い道**」を選び、生きて下さいました。このことをSY師が、「主は、聖霊を賜るという約束と同時に、あなたがたの方でも(狭い門へ)意識的に入ろうと決心して入れ、と訴えておられる」と勧めを語っておられ、**神の恵みと神信仰による服従**の両面が必要であることを示しておられるのです。**マタイ7:14**は、「細いことでしょう」と、感嘆詞で始まっています。

結論；

- ◇ **神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ **マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇ **マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇ 本日は、**マタイ7章13～14節**も、**マタイ5章**の続きで、**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、先週の「**求めよ、さがせ、戸を叩け**」(7)で、「**御子イエス・キリスト様**」が私たちに前向きに生きることを求められ、「**黄金律**」とも呼ばれる「12 **だから、何事によらず自分にしてもらいたいと思うことを、あなた達もそのように人にしなさい。これが律法と預言書(と[聖書]の精神)である**」に集約されましたが、「**狭い門**」(13)、「**細い道**」(13)を進み、「**神のいのち**」に与ることを望んでおられます。
- ◇ **マタイ7章13～14節**では、「**滅びに至る広い門と広い道**」も語られ、「**警告**」しておられます(14)。

◇**マタイ7:12**「だから、何事によらず自分にしてもらいたいと思うことを、あなた達もそのように人にしなさい。これが律法と預言書(と[聖書]の精神)である」の黄金律の主の使信は、「狭い門から入りなさい」と語られる思いを反映しています。

⇒**マタイ5:48**「塚本訳;だからあなた達は、天の父上が完全であられるように『完全になれ。』」も、「あなたがたの天の父の愛に欠けた部分や愛さない例外がないように完全にみんなを蔽うような、天の父の広さをもて」のみことばの前に、何かの誇りを打ち砕いて父の子にしてくださいと「**狭い門**」が、そこにあると気づくのですと、**OA師**は、仰せです。